

## 2016年1月10日 礼拝メッセージ

聖書：第一ヨハネ5章1～12節

説教：いのちを持っています

### 1 神を愛する

#### 1) もしきまりごとがなければ

最近シェアハウスということばを聞くようになりました。安い家賃で他の人といっしょに一つの家で生活するというスタイルで、若い人たちに人気があるのだそうです。そのシェアハウスの大家さんが店子を集めるために広告を出したとしましょう。キャッチフレーズはこうです。「ここには何もルールはありません。自由に住んでください。」大変魅力的な宣伝に聞こえます。でも、おそらく誰も住む人はいないでしょう。店子同士でけんかが始まるのが目に見えています。誰かといっしょに生活するには、何らかのルールが必要になります。しっかりルール作りができているところならば安心して生活できます。

#### 2) 神の命令、きまりごと

そのことを前提として3節を読みます。「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません」とあります。神の命令とは何か。4章21節にすでに示されていました。「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。」

ここに「命令」ということばがあります。「命令」と聞くと、うんざりしてしまいます。でも、これを「ルール」「きまりごと」ということばに言い換えてみたらどうでしょうか。皆さんがシェアハウスに住んでいるとします。神が与えてくださった「きまりごと」

を守りなさい。そのきまりごととは、兄弟を愛することです。そんなふう言い換えてみましょう。みなさんがこの家でけんかをしないで上手に暮らしていくために、このきまりごとを守ってください。そんなイメージです。「命令です」と聞くととんだか頭ごなしに言われているようでしたが、仲良く暮らすための決まり事ですと言われれば、なんとなく理解はできます。

ところが頭では理解はできるけれど、これが守れないから困っているのです。先週も触れたことですが、私たちは兄弟を愛することができないことで悩んでいます。あまりにも悩みが大きいので、聖書で「重荷にはなりません」と言われても信じられません。重荷に感じてしまうのは、自分が駄目クリスチャンだからだ。そんなふう気落ちする方もいるでしょう。いったいどうして「重荷にはならない」、と言われるのでしょうか。

#### 3) 「守る」の意味

##### ①「従う」「実行する」

その解決の鍵は、「守る」ということばをどう理解するかにあると思われます。ここで「守る」と訳していることばですが、他の聖書の箇所でも何度も出て来ます。それらを調べていくと、大きく分けて二つの意味で使われていることがわかります。一つは従う、実行するという意味です。例えば車を運転するとき、赤信号では止まります。それは交通規則を守る必要があるからです。もし守らなかったら誰かを傷つけるか、自分が傷つく

ことになります。だから一生懸命守ろうとします。

多くの方は、この箇所の「神の命令を守るなら」というところを、この意味で読んでいると思います。神の命令に従う、神の命令を実行する。そう読みます。でも交通規則とは違って、私は神の命令を守るのは難しい。考えれば考えるほど、神の命令が重荷になってしまいます。

## ②「大切にする」

でもこれはとは別に「守る」にはもう一つの意味があります。例を挙げましょう。イエスが十字架おつきなったときのことです。

「こうして、イエスを十字架につけてから、彼らはくじを引いて、イエスの着物を分け、そこにすわって、イエスの見張りをしていた。」(マタイ 27 章 35, 36 節) この「見張りをしていた」というところに同じ「守る」ということばが使われています。イエスが重要人物であるから見張る。番をする。これを良い意味で使えば、「大切にする」とか「大事にする」、そのような意味になります。

## 4) 重荷とはならない

2、3節に出て来る「守る」が、この二つ目の意味であるならどうなるでしょう。3節を言い換えればこうなります。「神を愛するとは、神の命令を大切にすることです。」実際に従っているのか、実行しているのかはとりあえず措いておいて、大切に思っている、大事にしている。そのような意味であると思います。もしそうであればどうでしょう。

みなさんは、どうしてこの命令が重荷だと感じたのですか。兄弟を愛すべきですという神の命令は大切だと思ったからでしょう。大

切だとわかっていながらできない自分がいる。それで悲しみます。できないからつらいのです。もし神の命令が大切でも何でもないと思うなら何も感じないでしょう。何を聞いても悲しんだりはしないでしょう。

おかしな事を言うかもしれませんが、もしみなさんが神の命令を聞いて悲しんでいるなら、あなたは実は神の命令を守っていることになります。なんだかだまされた気分でしょうか。

でも、「その命令は重荷とはなりません」とあります。重荷に感じるから悲しんでいるはずです。それなのになぜ重荷ではないのか、次に見ていきます。

## 2 信仰を持つ者は世に勝っている

4、5節です。「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそが、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」

聖書によればこの世界が真理と罪の戦いのなかにあると言われます。「争いは嫌いだから、なあなあでいきましょうよ」で済む話ではありません。イエス・キリストは、罪と戦い、罪を滅ぼすために私たちのところに来られました。主がご自分のいのちをお捨てになり、三日目に死からよみがえられました。そのようにして、神が罪に勝利したことが示されました。

5節に、「イエスを神の御子と信じる者は世に勝っている」とあります。信じるだけで、世に勝つことになる。あまりにも話がうますぎると思うのでしょうか。いつもがんばってきた人には、信じられない話、鼻で笑いたくなるような話にしか聞こえないでしょう。

私が会社で働いていたとき、自分がクリスチャンであることを伝えたら同僚からこんなふうに言われた事を思い出します。「クリスチャンは、教会に行っただけ祈っているだけでしょう。それで問題が解決するなら世話ないよね。」何でも神頼みばかりで、努力もせずに安易に生きている人々という皮肉がそこに込められていました。

もちろん、それは誤解であることは言うまでもありません。みなさんは、一生懸命まじめに努力しながら生きてきました。けれども絶対に乗り越えられない壁にあることに気がついて、イエス・キリストに出会うことになりました。もしこの方がいなかったなら、私たちは罪の中で絶望するしかなかった。でもこの方には本当の希望がある、だからこの方を信じてみたい。そう思って皆さんはここに座っておられます。

では、この方の中にどのような希望があるのでしょうか。ローマ書8章3、4節にこうあります。「肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。」

神の命令を守ると言うことが、どうして私たちには重荷とはならないのか。私たちにはできないことを、神がしてくださるからです。私たちが背負うべき荷を神が負ってくださると約束してる。だから重荷にはならないのだと言われます。

### 3 御霊と水と血 (ヨハネ4章)

それだけではありません。神はただ重荷を背負うだけでなく、兄弟を愛せないと悲しんでいる私たちを励ますためにいろいろな助けを与えてくださいました。7、8節に「あかしするものが三つあります。御霊と水と血です」とあります。この三つのものが一つとなりながら、御子を持つ者はいのちを持っていることをあかしすると言っています。血というのは、イエスが十字架で私たちの罪の贖いとして流された血潮を示します。では御霊と水とは何か。

御霊と水に関して、例をひとつ挙げます。イエスが井戸の傍らに座っていたところへサマリヤの女が水を汲みに来たとき、この女性はイエスにこうお願いしました。「私に渴くことのない水をください。」イエスは言われました。「行って、あなたの夫をここに呼んできなさい。」この女性は五回の結婚をくり返し、いまは六人目の男と同棲しています。夫のことは最も触れて欲しくな話でした。自分が神の命令に背いていることはよくわかっています。いつもなら、その話題が出ただけで恥ずかしくなり、腹を立てながら逃げ出していたでしょう。けれども、なぜかそのときはこの女性は御霊の働きに促されて「私には夫がいません」と正直に告白します。イエスはこれを聞き、ひとことも非難するようなことばは言いません。ただこう言います。「あなたが言ったことは本当です。」そうしたら何が起きましたか。この女性は、手に持っていた水がめを置いて走り出しました。町の人々に向かってイエスのことを大声で紹介し出すのです。先ほどまで、町の人たちとは口も聞きたくないという態度でした。それが今は自ら進んで声をあげて話しかけ始めます。どうしてそんなことになるのでしょ

う。活けるいのちの水がこの女性の内側からあふれ出ているからです。イエスが、罪深い私のことを非難せず、そのまま受けとめてくれた。この私の罪のためにこの方は血を流してください。そのことがわかったからです。

それまで町の人たちとは話をしたくないと思って避けていました。でもイエスに救われたとき、この女性は町の人々に向かって走り出しました。壊れていた町の人たちとの関係が、修復されていきます。それまで憎んでいた兄弟を愛し始めたと言っていいでしょう。大きな変化です。

この女性は何か努力したのでしょうか。いいえ。なにもしていない。ただやったことと言えば、ひとこと自分のことをそのまま正直に告白しただけです。そうしたら、神が変えてくださったのです。どれだけ変えられたのか。走らずにはいられないくらいです。黙ってはいられないのです。というのは、いのちの水が次から次へとあふれるようにわき出てくるから。それがうれしくてうれしくて、踊り出していく。

これが、神が与えてくださるほんとうのいのち、恵みです。